

## 古賀市環境審議会（第51回）議事録

1 期日 令和4年11月18日（金曜日）10時00分から11時40分まで

2 場所 リーパスプラザこが歴史資料館 中会議室

3 出席委員（7名）

会長	薛 孝夫	委員	安武 祐子
副会長	渡邊 裕子	委員	小林 智美
委員	上杉 昌也	委員	三戸 優理
委員	中屋 允雄		

4 欠席委員（7名）

委員	鬼倉 徳雄	委員	花田 徳弘
委員	島岡 隆行	委員	吉見 一郎
委員	二渡 了	委員	木庭 かおり
委員	菊次 憲二		

5 傍聴者数 なし

6 事務局出席者職氏名

市民部長	清水 万里子	環境課長	吉永 ゆかり
環境整備係長	村山 隆一	市川 翔	
橋爪 恵里			

7 一般財団法人九州環境管理協会出席者職氏名

環境計画課長	保田 武彦	真玉 明子	
--------	-------	-------	--

8 議題

- ・市民・事業者アンケート調査について
- ・市民ワークショップについて
- ・部会の設置について
- ・令和4年度古賀市環境報告書（案）について

9 配布資料

- （事前配布）
- ・次第
  - ・第3次古賀市環境基本計画策定のためのアンケート調査調査結果中間報告【資料1】
  - ・第3次古賀市環境基本計画策定にあたっての市民ワークショップの進め方（案）【資料2】
  - ・「ごみ処理基本計画策定専門部会」の設置について【資料3】
  - ・令和4年度版古賀市環境報告書（案）【資料4】
- （当日配布）
- ・令和3年度版古賀市環境報告書（抜粋）

## 概要

---

### 1. 開会あいさつ

---

- ・ 薛会長よりあいさつ。

---

### 2. 議事

---

#### (1) 市民・事業所アンケート調査について【資料1】

- ・ 配布資料に基づき、事務局より説明。

- ・ 資料1の訂正箇所は以下のとおり。

P1：調査期間の締め切り日の元号を「平成」から「令和」に訂正する。

P19：5) 特に改善してほしい場所のその他の平成24年回答率を「41」から「59」に訂正する。

P35：問11(2)環境保全活動への参加について「満足している人の割合」を「いつも参加している人の割合」に訂正する。

- ・ 質疑・応答。

○ 薛会長： アンケート調査についての質問や今後の活かし方、取りまとめ方法についてのご意見をお願いしたい。

○ 三戸委員： 前回の審議会で、アンケートに環境基本計画のダイジェスト版を付けるという意見があったが、どのように実施したのか。

● 事務局： アンケート調査票を郵送し、環境基本計画に関する設問にはQRコードを付け、市ホームページの環境基本計画の概要版を開くことができるようにした。

○ 三戸委員： アンケート実施時に、古賀市環境報告書のドラフトは出来ていたのか。環境の状況を客観的に示さないと感覚的な回答となる。数値などを示してアンケートを回答できるようにしたか。

● 事務局： 環境報告書についても同様にQRコードを付け、最新の環境報告書を開くことができるようにはしたが、ボリュームが多く、しっかり中身を読むのは難しかったのではないか。簡素化したダイジェストがあれば、負担をかけることなく状況を把握して回答できたと思うので、課題と考えている。

○ 薛会長： 実際にWEBを閲覧した人の数はわかるのか。

● 事務局： 把握できない。

○ 小林委員： 回収率が37%から27.6%とかなり下がった。アンケートの数字としては寂しい。減った理由として何が考えられるか。

● 事務局： 必要性の周知が足りなかったと反省している。居住年数が長い方の回答が多く、新たに居住された若い方からはあまり回答いただけなかった。

○ 小林委員： 自由記入をみると、機会があれば身近な環境等について訴えたいことがある方から回答いただいていると感じた。自分の事だけでなく、市全体の問題を自分事として回答いただける方を増やすことが大事。市民が関心を持つのは自由意見ではないか。自由意見を広報などで公開すること

はできるのか。

- 事務局： 同感である。市民の想いが自由意見に表れている。ホームページ上に載せるには庁内調整が必要。環境課の窓口やリーパスプラザこがで閲覧できるようにしてホームページで告知するなど、公開の手法等も含め検討したい。
- 薛会長： 自由意見を公開することも有効かも知れないが、それをどのように汲み取って行政に活かすかがより重要である。市民は何に関心が高いのか、何を期待しているのかなど、分析を深めてほしい。自由意見については、集約したものをアンケートの成果として収録する事も検討してほしい。回答者の属性比率を見て属性ごとの関心の高さなどを論ずる向きがあるが、市民全体の構成比どおりに無作為抽出され、それが回答者の構成比と同様なら属性による差はないことになる。アンケート発送先の属性構成は分かっているのか。  
(※審議会では事務局から即答できなかったが、実際は男女比、年代は同数抽出のうえアンケートを実施している。)
- 小林委員： 39 ページの自由意見で「よほど中身に精通していないと 20 分では回答できない」「ちょっと内容が難しく、回答できませんでした。申し訳ないです」「当アンケートも回答困難」などの意見がある。初見で環境問題の知識が無い方が、QR コードから古賀市環境報告書を見に行っても、内容が膨大で難しい。環境問題を聞き慣れていない人にもわかりやすく、また、わからないなりに、できるだけご回答いただけるように PR できるとよかったのではないか。
- 渡邊委員： 前回の審議会でも時間がかからない方がよいという意見と、バックグラウンドがわからないと回答できないという意見があった。何に焦点を当てるべきなのかが問題である。回収率をよくするのか、一般市民に広く答えてもらうのか。お忙しい方には時間がかかるアンケートは難しい。
- 事務局： アンケート調査票に「回答が分からない設問については、未回答でかまいません。次の設問にお進みください。」と記載し、無回答でも次に進めるよう配慮した。
- 小林委員： 29 ページの今後の取り組み意向についての設問などは、未回答が多い。
- 安武委員： アンケートの内容を市民としてみると、説明が付いているのでざっと内容が理解できたのではないか。多くの市民は「ZEH の導入」など知らないと思うが、説明を見て回答いただいた方は少し意味がわかるようになるという、よい面もあったのではないか。
- 薛会長： 前回の審議会でも良く練ったアンケートだったはずだが、回収率や回答率の低さなど、課題が残ったという意見が多かった印象だ。意見は今後の参考にしたい。市全体のことを考えた回答ができる人を増やすべきという意見もあったが、個々の市民の認識を確認し、様々な個人の意見をまとめて行政に活かしていくというのがアンケート調査の趣旨でもある。まずは、得られた結果を、今後の施策や計画に活かせるように分析することに力を入れてほしい。

- 渡邊委員： 12 ページで「ごみの減量と資源化対策」に関する満足度・重要度は高いが、追加資料の3 ページ「1 人 1 日当たりの家庭ごみ処理量」は増えており、「資源化率」は下がっている。「ごみの減量と資源化対策」は重要と考えているが1 人当たりのごみの量は、県内でも高い。「環境保全活動に関する実行度」も中間年度で33%と下がっている。意識が高くても効果が出ていない。実行に移す方策を次の計画に活かしたい。

## (2) 市民ワークショップについて【資料2】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。
  - 薛 会 長： 市民ワークショップについてご意見をお聞きしたい。
  - 上 杉 委 員： アンケートでは年齢層に偏りがあり、古賀市一般市民の意見として扱ってよいのか疑問がある。アンケートを補足する形となるよう、ワークショップでは若い方々の意見を聞けるよう配慮すべきではないか。
  - 中 屋 委 員： アンケートでは高齢の方の回答者が多い。経験を重ね市の将来を危惧されているのではないか。ワークショップでは年齢層を考慮して人選するとよい。
  - 事 務 局： アンケートでもワークショップの紹介をしたが、あまり反応はない。市のホームページなどで募集しながら、既存団体にも声をかけたい。
  - 渡 邊 委 員： 高校などにアプローチしてはどうか。
  - 小 林 委 員： ワークショップの実施は1 月～3 月の予定で、高校の試験期間と重なるのではないか。
  - 三 戸 委 員： 開催の日程や時間も問題である。若い社員が参加できる時間で開催した方がよい。
  - 事 務 局： 土日や平日の夜の開催を考えている。前は平日の夜7 時からの開催であった。
  - 渡 邊 委 員： ワークショップは全3 回だが3 回とも参加する必要があるのか。
  - 事 務 局： 基本的に3 回参加していただくように考えている。
  - 渡 邊 委 員： 時期は受験期間でもあり、新型コロナウイルスの第8 波も来ている。ワークショップなので難しいと思うが、オンラインやハイブリットでの開催も検討してはどうか。
  - 事 務 局： オンラインの開催も選択肢の一つと考える。対面で集まって話す方が活発なご意見を聞けると思うので、できれば対面で開催したい。新型コロナウイルスなどの状況を見極めて決定したい。
  - 薛 会 長： オンラインのワークショップを実施した経験はあるのか。
  - 九 環 協： 会議を班に分けオンラインのホワイトボード機能などを使用して実施することは可能ではあるが、離れている所で議論するので難しい面もある。会社としてオンラインでの実施経験はある。
  - 薛 会 長： 参加者募集のチラシなどの案は出来ているのか。
  - 事 務 局： 詳しい日程などは決めていない。ワークショップの進め方の提案をご承認いただければ、日時や募集内容を検討し、ホームページの掲示や学校

へのチラシの配布等で周知し、募集する。

- 渡邊委員： 情報を広く若い人々に伝えるにはどんな手段がよいか。
- 薛会長： 広報には載せられないか。
- 事務局： 広報の事前決裁に時間がかかるので、初回ワークショップを提案の通り1月に実施するのであれば間に合わない。ホームページや市の SNS、高校へのチラシ配布等を通じて募集したい。
- 小林委員： 高校生の参加を考えるならば、ワークショップの開始時間を夜7時とすると終了が9時頃となり、家に着くのが10時近くになる。寒い時期であるシインフルエンザの心配もある。土日の昼の開催としてはどうか。コロナ対策のための換気も寒い中では難しい。参加される方の生活をイメージしながら設定したほうがよい。個別に団体へ参加を呼びかけるとのことだったが、環境問題に取り組んでいる団体は高齢の方が多い。10～30代に訴求できる経路を検討されてはどうか。
- 薛会長： 3回のワークショップでは毎回の結果を取りまとめるために1週間ほど空けて次回という形が多いようだ。事務局のとりまとめは大変になると思うが、期末試験後の土日の連続2日間で実施することを検討してはどうか。
- 事務局： 1回目のワークショップは概要や情報の説明となるがこれを1月か2月に実施し、2回目3回目は土日や春休みなどにまとめて実施することも検討したい。
- 薛会長： 1回目の情報提供は文章でも可能かもしれない。  
4班に分けるなら20人くらい参加してもらう必要があると思う。いずれにしても若い人の意見が聞けるワークショップにすることを目標に検討を進めて欲しい。  
この先、我々がワークショップについて関与できる機会があるのか。
- 事務局： 3回目の環境審議会は2月を予定している。
- 薛会長： 次の審議会では、ワークショップについては進捗状況の報告といったことになりそうだ。委員の皆様からは、今日のうちに、具体的な提案を含めてもう少しご意見をいただいております。
- 三戸委員： ぐりんぐりん古賀や環境課のイベントなど、子どもがいるご家庭が集まる場で告知してはどうか。よほど調べたいことがなければ、WEBサイトも見ない。知ってもらう機会を増やしてはどうか。
- 事務局： ご意見を伺って、参加者募集の告知のチラシがあるとよいと考えている。環境課でのイベントはないが、市の他部署のイベントやぐりんぐりん古賀などでの周知を考えたい。
- 小林委員： ポスターはどうか。何かを待っている場所などに掲示してはどうか。
- 渡邊委員： 若い方が訪れるリーパスプラザこがや図書館、学校の掲示板などに掲示してはどうか。
- 薛会長： 高校生に絞ることはできないのか。生物多様性地域戦略のワークショップでは高校生を対象としていたようだが。
- 事務局： 生物多様性地域戦略ではぐりんぐりん古賀の主要なメンバーにファシ

リテーターとして参加いただき、高校生のグループで意見を聞いた。

- 小林委員： 看護大学にはアプローチできないのか。古賀市在住者が対象となるのか。古賀市には大きい工場が多く、若い人も多い。特定の企業から参加者を募集することは難しいかもしれないが、若い人が多い場所の昼休憩の場所などにチラシを貼ってもらってもらえれば、今までと違う人の目に留まるのではないか。
- 中屋委員： 参考までに報告する。大根川の清掃活動には古賀中学校の生徒が、学校教育の一環として250名が参加し、筵内から松原まで清掃した。現地の集計では376名参加していたと聞いている。
- 渡邊委員： 小学生を対象にアンケートを実施する計画のようだが、中学生からの意見は聞かないのか。中学生も見識を深めて意識が高くなっている。前回の審議会でも中学生からも意見を聞くと良いという提案があった。
- 事務局： 小学5年生を対象と考えているが、中学生についても前向きに検討したい。例えば中学2年生など、1学年500~600人程度を検討したい。
- 薛会長： ワークショップに関するご意見はこのあたりでよろしいか。ご意見がなければ次の議題に進む。事務局で一旦まとめていただけないか。
- 事務局： 高校生や若年層が参加しやすい日程について、必要な取材をして決定させていただく。若年層への呼びかけとして、ホームページやSNSのほか、公共施設や駅などに広報物を貼ることも検討したい。ワークショップは4班に分けようと思っているが、グループの設定などについてはコンサルと協議したうえで薛会長に相談したい。

### (3) 部会の設置について【資料3】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。
  - 事務局： 地球温暖化対策実行計画に関する部会の設置について検討したが、これは吉見委員に相談しながらコンサルと事務局で作成することとし、部会は設置しないことになった。部会を設置するのは「ごみ処理基本計画」のみとし、島岡委員、上杉委員、渡邊委員、小林委員、花田委員、三戸委員にお願いしたい。部会長は島岡委員にご了承いただいている。
- 薛会長： 皆様にお引き受けいただければ、よろしくお願ひしたい。部会の設置について、これでよろしいか。
- 委員： よい。

### (4) 令和4年度版古賀市環境報告書(案)について【資料5】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。
  - 中屋委員： 22ページに誤字がある。下から3行目50㎡ではなく50m<sup>3</sup>ではないか。
  - 事務局： 修正する。
  - 三戸委員： 環境報告書の指標の評価結果について、もう少し踏み込んでどうか。特に悪くなった指標について、なぜ悪くなったのか、どう改善するのか。

例えば 32 ページに、猫に関する苦情が増加しているとあるが、なぜ増えたのか原因分析がない。苦情件数は減っているが相談件数は増えている。評価が難しいがもう少し分析が必要で、計画に反映すべき。

アンケートで要望が多かった意見について、環境基本計画に指標を設け、具体的な指標を設定できないか。花鶴ヶ浜の漂着ごみなどは身近な指標となるのではないか。一人あたりのごみ排出量を減らすといってもピンとこない。

- 渡邊委員： ごみ排出量など、市民の意識と実際の数値が違うことについて、なぜ違っているのかを分析して、活かす必要がある。市民の環境保全の意識は高いが、実際の実行度が低い。
- 小林委員： 「やらないといけないと思うが実施できない」という可能性もあるが、「やれていると思っているが、実はできていない」という可能性もある。どちらのパターンなのかによって、取組の方向性も変わる。原因の解析が必要。
- 渡邊委員： アンケート回答者の半分が高齢の方で、意識はあっても体が動かないという可能性もあるのではないか。
- 上杉委員： アンケートに回答される方は一般的に環境意識が高い。それ以外の方はそこまで環境について考えていないのではないか。
- 薛会長： 今回の評価について、数値が改善されなかったことについて説明が必要だという意見があった。数値が悪くなっている箇所については、原因をもう少し分析して、可能な範囲で説明を加えて欲しい。併せて、市民の努力が成果として現れやすい項目であるか、実現可能な数値であるかといった点からも見直して、次期計画の目標設定に活かしていただきたい。
- 上杉委員： 社会情勢によるものも大きい。新型コロナウイルスの影響については日常が戻りつつあるが、物価の上昇による買い控えなど、どのように評価するかが今後の課題となるのではないか。
- 薛会長： 大事な指摘で、特に後期実行計画の総括では欠かせない視点となるだろう。環境報告書にも社会情勢を反映した動向について触れていないので、書ける事があれば加筆を検討してほしい。ほかに意見はないか。なければこの議題を終了したい。

---

#### 4. その他

---

<事務局からの連絡事項>

- ・ 報償・費用弁償については、12月中の振込を予定している。
- ・ 会議録は作成次第、委員全員にメール・郵送し、内容等に誤りがないか確認をお願いしたい。  
会長の承認後、会議録についてはホームページで公開する。
- ・ 次回の環境審議会は来年2月中の開催を予定している。

---

#### 5. 閉会

---